

総合型選抜に挑む

受験生
必見!

日本大学 生物資源科学部

総合型選抜

合格 体験記

I passed!

一般選抜に比べて試験対策などの情報が限られる総合型選抜。

当日までどんな準備をすればいいのか、自分の努力は間違っていないかなど、

疑問や不安を感じている受験生も少なくないでしょう。

そこで今回は、これまで**総合型選抜を受験し、見事合格を勝ち取った先輩方**にご登場願ひ、

試験内容や学習のポイントなどを自由に語っていただきました。

皆さんの進学や受験をサポートする貴重な声としてぜひ参考にしてください。



生物の謎を解く、最先端のその先へ。

日本大学生物資源科学部

C A S E



バイオサイエンス学科

Y.K. さん

高 校時代に遺伝子で病気が治療できることを知り、バイオサイエンス学科で医療・医薬に関連する研究をしたいと考えようになりました。そんな時に担任の先生から、「君の学びたい分野がここにもあるよ」と、本学部や学科について教えていただいたのです。私も興味を持ち、オープンキャンパスに参加したところ、先輩や卒業生の皆様からとても印象的なお話をうかがうことができました。ここなら自分の希望する研究ができそうだと確信し、2年生の夏頃には進学の意味を固めていました。

私は塾に通わず、進路指導の先生に相談するなど、高校の入試対策を利用しました。1次選考の小論文への対策は、3年生の春頃から自分の研究したい分野に関する新聞記事を探し、読み込んでおきました。課題が発表されてからは、集めた記事のなかで関連する重要な部分にマーカーでラインを引き、深く理解するよう心がけました。そのようにして書き上げた小論文の添削も、進路指導の先生にお願いしました。

2次選考課題の事前発表はなかったのですが、教科書などで実験器具の名前や使い方などを確認する程度で十分に対応できました。試験当日は、牛乳に凝乳酵素を混ぜるとチーズのように固まるという実験を行い、2つの課題が提示されました。1つは、牛乳と凝乳酵素を混ぜるとどうして固まるのか、もう1つは凝乳酵素の代用品として使えるものは何か、でした。私は、いろいろな物質を加えて牛乳を固めることを試み、それぞれの答えを導き出しました。実験の内容も使用した器具も初めてでしたが、高校の

授業で勉強した知識を応用し、解決できたのでよかったです。とても面白い経験でした。

これから始まる学科の授業や実験は、どれも全部楽しみです。専門的に研究したい分野はまだ漠然としているので、幅広い分野について学び、自分なりの研究テーマを見つけていけたらと思っています。



動画はこちら





動物学科

鈴木遥香さん



動画はこちら



小 学生の頃に初めて知ったカイコが、生き物に興味を持つ入口でした。そこからカイコ以外の動物にも興味が広がり、大学でも動物関連の勉強がしたいと考えていたところ、本学部に動物学科が新設されることを知りました。そこで、高校3年生の春にはオープンキャンパスに参加。キャンパスにある骨の博物館も見学しました。大学に博物館があることはもちろん、その展示物にも驚かされました。普段見る機会のない野生動物から身近な動物まで、多種多様な生き物が剥製や透明標本として展示され、とても面白かったことを覚えています。

受験については、総合型選抜を選択したときから塾で小論文対策のワークを使用し、準備を始めていました。実際に1次選考の課題が発表されてからは、課題に沿って自分で書いた小論文を生物の先生や担任の先生、塾の先生などに見せてご指導いただきました。例えば、動物についてよく知らない人が読んでわかるように書く、ネットや本で調べた情報は鵜呑みにせず嘘を書かないよう気をつける、などのアドバイスを参考に、完成に近づけていきました。

2次選考については、高校の生物の先生や塾の先生に何度も面接練習していただいて準備し、当日に臨みました。課題は、骨の博物館で動物の標本を観察し、歯のスケッチをとるというもの。2日目にはその内容をまとめ、プレゼンテーションも行いました。スケッチは、点で濃淡を示すように注意しました。また、資料のまとめ方などにも気を配り、なるべく聞きやすく理解しやすいプレゼンテーションを心がけました。先生方にご協力いただき、練習を繰り返したおかげでしょうか。想像したよりも緊張せずに課題や面接に取り組み、合格への手応えもしっ

かりと感ることができました。

今回、総合型選抜を選び、小論文や口頭試問の練習を行ったおかげで、普段の授業では見逃してしまいがちな、生物に関する多くの知識が得られました。今後の大学での学びにも役立つのではないかと期待しています。

動物学科は、動物そのものだけでなく動物の生息する環境なども含め、思った以上に幅広く学べる点が驚きでした。これからの授業や実習がますます楽しみです。





CASE

海洋生物学科

K.S. さん



動画はこちら



大学では海洋生物について学びたいと思い、本学科に興味を持ちました。入学前に、水道橋の校舎で開催された相談会に参加しましたが、フィールドでの実習も多く、水族館の飼育員や水産品の企業など幅広い就職先がある点も魅力的で、ぜひ入学したいと考えるようになりました。

総合型選抜による受験は高校の先生のアドバイスです。私が通っていた高校では、1年生の頃から授業でプレゼンテーションを行う機会が多々あり、それを生かせるような受験方法を選んだらどうかと薦められたのです。本格的に受験勉強を意識したのは高校3年生の4月頃で、その時期から塾にも通い始めました。

1次選考の小論文は魚のサケに関する課題で、高校の授業では学んだことのない内容でした。そこで最初は、わからない単語や基本的な知識を文献などで探し、過去のサケの飼料に関する論文なども読み込みました。生物の先生やサケについて詳しい標津サーモン科学館の飼育員さんにもお話をうかがい、論文作成の参考にしました。

2次選考の課題は、初日が魚の頭の中にある「耳石」の取り出しでした。また、魚の尾びれのアスペクト比と、遊泳速度の関係について考察し、自分の考えをグラフとともに記述するという課題もありました。2日目は、前日の課題についてのプレゼンテーションです。1日目に考えた点を自分の中で文章化し、間違いのないことを確認した上で臨みました。

この2次選考では、高校3年間で学んできたことを最大限生かすことができ、自分の実力に自信を持てるようになりました。一方で、言葉遣いや漢字のミス、文章構成の間違いなどもあり、これから努力すべき点もわかってきました。

今回総合型選抜で受験し、とても多くのものが得られたのでよかったと思っています。

今後の学科の授業では、実際に水族館などで働いた経験のある方からの講義や、生物の生態などを詳しく学べる講義、直接フィールドに出る実習などが非常に楽しみです。大学生活では、卒業後どんな自分になりたいか、明確な将来像を持ち、それを大きな目標として努力を続けたいと考えています。





森林学科

朝原楓さん



動画はこちら



私 は高校の総合学科に通い、生物生命系列で畜産を専攻し、動物愛好部に所属していました。卒業後は専門学校に入学しましたが、やはり植物や森林について研究したいと思い、森林学科に興味を持ちました。夏のオープンキャンパスに参加した際は、正門から見えるケヤキの緑がとても素敵で、将来ここに通えたらいいなと感じたことを覚えています。

受験の準備を本格的に始めたのは、受験した年の6、7月頃です。大学で森林、林業関係を専攻されていた農業の先生からお話をうかがい、小論文のポイントや学んでおいた方がいい情報についてのアドバイスをいただきました。そこでまずは、1次選考の小論文に向けて多くの情報を集めようと考えました。例えば、林野庁ホームページを何度も読んでまとめたり、先生から薦められた「森林総研」などの本を読み込んだりして、知識として吸収するよう心がけたのです。その後、3週間ほどかけて小論文を書き上げましたが、2次選考のことを考慮し、読書や情報収集は休まず続けていきました。

2次選考の1日目には、森林に関わる講義をきいて要点をとりまとめたり、年輪から炭素の貯蓄量を求める計算を行う課題などが出されました。これは思いも寄らない出題で、大学ではこんな面白い勉強もできるのだと知り、非常に好奇心を刺激されました。2日目は前日の内容について3分程度でプレゼンテーションするという課題です。1日目の終了後すぐ講義内容をまとめ、台本を作って練習を重ね、落ち着いて本番に挑めたのはよかったです。

今後の森林学科の授業では、演習林での実習がとても楽しみです。キャンパスに隣接する藤沢演習林では、実際に樹木やそれらを取り巻く環境を

いつでも観察でき、本や授業で学んだ知識をより生かせるのではないかと期待しています。北海道や群馬県の演習林での実習も楽しみです。

私は樹木医補の資格を取り、将来は樹木医として働くことが夢です。樹木のプロフェッショナルとして、人々の癒しや心の拠り所となる歴史ある森を守り、後世へ繋いで行くような仕事がしてみたいと考えています。



C A S E



環境学科

F.S.さん



動画はこちら



高校時代に私は、将来やりたい仕事が決まらず、進学先について悩んでいました。そんなとき友人から、「将来やりたい仕事のためじゃなく、今学びたいことで進学してもいいと思う」といわれ、迷いがなくなったような気がしました。そこで、先生から紹介していただいた本学科を受けてみたいと考えようになりました。

1次選考の小論文は、1ヶ月くらいの時間をかけて取り組みました。まず、具体的にどのような内容にするのかを決め、関連する本を3冊は読みました。また、何回も書き直して何人もの先生に見せ添削していただきました。自分なりに工夫した所は、結論を最初に述べることで、さらに自分の意見だけでなく、多様な方面の意見や現状についても記述するよう心がけました。

2次選考は実験およびプレゼンテーションと面接で、私の受験時は2日間に渡り行われました。実験とプレゼンテーションについては内容が未発表だったため、練習は面接中心で、1日に最低2回、異なる先生から面接指導していただくようにしました。いよいよ当日、1日目はまず実験、そして2日目のプレゼンテーションの課題が告げられました。体験型の環境保全プログラムを考えて発表するというもので、自分だったら楽しいだろうな、やってみたいなと思えるようなプログラムを意識して取り組みました。

私にとって今回の総合型選抜は、とても有意義な経験でした。これまで、書く機会が少なかった小論文に本気で取り組むことができ、文章力や物事を多方面から見る力がついたような気がします。また、苦手だったプレゼンテーションも克服できました。自分の考えをわかりやすく人前で発表できるようになり、大学の授業などでも本当に役に立っています。そしてなんとといっても面接で

す。しっかりと対策を積んだことで、話し方や質問への答え方なども学べたと自負しています。卒業後は環境に関わる公務員や企業の仕事に就きたいと考えているので、就職試験にも自信を持って臨める、大きな武器が得られたと思っています。

1年生では、水や土、生物のことや生態系についての基礎的な知識を学びました。今後は、こうした知識をベースに、リモートセンシング実習や再生可能エネルギー学などを学び、環境問題に取り組むためのスキルを身につけていきたいと思っています。





CASE

アグリサイエンス学科

稲葉爽空さん



動画はこちら



農 学に関する勉強をするための大学進学は高校1年生のときから考えていて、3年生の春頃から本格的に準備を始めました。3年生で春のオープンキャンパスにも参加しましたが、緑にあふれたキャンパスや、教員数が多いことなどが好印象として残っています。受験方法は総合型選抜に決まっていますが将来に備えて基礎学力を高めるために、3年生の6月から塾に通いました。

1次選考の小論文は、課題が着いたらすぐに取り組みました。かなり難しいアイデアを具体的に文章化する必要があり、模造紙にさまざまなアイデアを書き出しながら頭を整理しつつ考えをまとめました。結果的には期限ギリギリまで悩みながら作成し、自信を持って提出することができました。一方、2次選考の内容はプレゼンテーションや実習などやや抽象的なものでした。そこで自分なりに予測できる限りの対策を行いました。とくにプレゼンテーションは、ホワイトボード、スケッチブック、パワーポイントなど、使いそうなものはすべて欠かさず練習しました。

2次選考では、農作物に関する講義を聴いた後、収穫とそれらの収量調査などの実地課題が出されました。その後講義や調査結果も踏まえながら、農作物の付加価値を向上させる方法を各自が発表し、それに基づいてグループディスカッションしました。ここでは自分の意見をしっかりと話すだけでなく、相手の意見をよく聞き、質問もしながら理解することを心がけました。2次選考は可能な限りの対策をとって挑んだので、緊張状態でも自分の力を発揮でき、手応えを感じつつ終わることができました。その後の大学生活を送る上でも大きな自信につながる経験だったと感じます。

私は将来、実践的に農業へ関わる職業に就きたいと考えています。祖父母の農家を継ぐことや、牧場の経営など多くの夢を膨らませ、農業をよりよくしていきたいと強く願っています。今はそのためにも、アグリサイエンス学科で農作物や家畜など、さまざまな分野のフィールドワークが行える実習や実験に取り組み、学びを深めていきたいと思います。



CASE



食品ビジネス学科

田中咲太郎さん



動画はこちら



本 学部は父の母校であり、昔から知っていました。また、私は小さい頃に食物アレルギーがあり、食について気にかける機会も多かったため、生産から加工・販売まで食品産業の流れを学べる本学科に興味があったのです。オープンキャンパスでは個人相談会にも参加し、その際の丁寧な説明にも感銘を受けました。両親も賛成してくれたことから、高校3年の夏には総合型選抜で、本学科を受験する決意を固めました。

1次選考の小論文は、塾の夏期講習に通い準備しました。先生にはいきなり文章を書き始めるのではなく、下書きを作成し構成を考えてから書くことや、誤字脱字をなくすよう声に出して読み返すことなどを指導されました。また、書き上げた文章は家族や友達などできるだけ多くの人に添削してもらうよう心がけました。作成には1ヵ月くらいかかりましたが、おかげで文章力も向上し、授業などのレポート提出にも役立っていると思います。

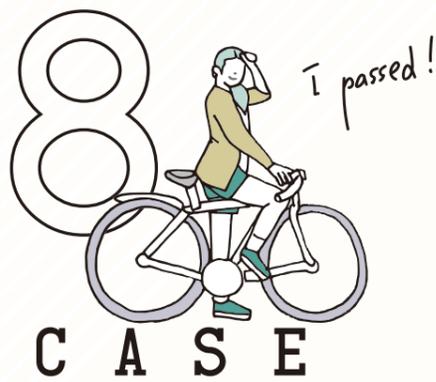
2次選考は内容が非公開だったため、まずは面接の練習に力を入れました。練習の様子を動画に録り、面接官のおでこのあたりを見て話す点や、髪や顔を触ってしまう癖などに注意しつつ、何度も見直して修正しました。

選考の当日に知らされた課題は、グループディスカッションとプレゼンテーションで、動画や事前の小論文などをテーマに話し合いを行いました。初対面の人との会話は緊張もしましたが、自分とは違う意見を聞いて発想の幅が広がったような気がします。課題は他の受験生と協力的に落ち着いて進めることができたので、それが評価され合格につながったのかもしれません。

これからの授業では、種まきから収穫まで自分の手で体験できる食農教育実習が楽しみで

す。また、知らない土地で、現場の空気を感じられるフィールドリサーチにも興味があります。こうした実習などを通じて食に関する幅広い知識を身につけ、将来は食品関係の仕事をめざしたいと考えています。





CASE

国際共生学科

角町杏美さん



動画はこちら



高 校生の頃、在学中の先輩とお会いする機会がありました。そのときにこの学科では、学生のフィールドワークを先生が積極的に応援してくれて、在学中に語学やデータサイエンスを使いながら世界規模の視点でビジネスや文化を学んで、多様な経験ができる場であるとうかがい、私もぜひ入学してみたいという気持ちを強くしました。

受験対策は部活動を引退した8月頃から始めました。塾には通っていなかったため、学校の先生に志望理由書や小論文の作成、面接の練習に協力していただきました。1次選考の小論文は、大学が求める学生像について自分なりに分析し、自分の意見や自分が取り組めることなどを明確に提案できるように書き上げました。また、作成した小論文はいろんな人に読んでもらい、できる限りわかりやすい内容にするよう気を配りました。小論文の作成には1ヶ月ほどかかりましたが、8月よりもう少し早めに取り組んだ方が、余裕を持って受験に臨めたと感じています。

2次選考の課題は、ウォーターフットプリントとフードマイレージに関するものでした。取り組み方の説明を聞きながらまず初めに個人で作業し、次にその内容を踏まえてグループディスカッションを行いました。私は率先してリーダーシップを取るようなタイプではないので、周囲の意見をよく聞くことや、自分の意見をしっかりと伝えることを意識しました。また、どの受験生も緊張していたので、笑顔で接することも忘れないようにしました。

総合型選抜で受験するメリットは、自分の意欲や経験、学びたいことなどを主張する必要があり、自己アピール力が身につくという点です。ただし、一般受験よりも早く結果が出るため、

その後の勉強をおろそかにしないよう、自制する必要もあります。

卒業後に何をするかは、まだはっきり決めていません。できれば将来は人のためになる仕事がしたいと考えています。また、多様性について学び、国際的に活躍できる人材になりたいとも思います。この先いろんな経験をし、成功と失敗を通して、自分自身に何ができるのか見つけること、それが大学生活での課題です。



C A S E



獣医保健看護学科

M.H. さん



動画はこちら



愛 玩動物看護師になるためには、どこで勉強したらいいのか調べていくうちに、興味深いがん研究を行っている本学部と出会いました。

当時は大学に入るか、専門学校で資格を取るか、ぎりぎりまで悩んでいました。しかし、担任の先生から「大学での学びは専門性が高く得られる知識も段違い」との助言をいただいたこと、オープンキャンパスで見聞きした学部の印象が素晴らしいことなどもあり、やはり本学部で愛玩動物看護師を目指そうという気持ちを固めたのです。

1年生の頃から少しずつ始めていた受験勉強は、3年生の夏休みが山場となりました。休み中も毎日学校へ通い、1次選考の課題である小論文や3年間の総復習に取り組んだものです。小論文はさまざまなホームページで調べた情報や、生物の先生からご指導いただいた知識などを総合して書き上げました。最終的には現代文の先生に添削をお願いしましたが、自分の言葉もすっかり残すことで、満足できる内容に仕上がったと思います。3年の夏休みは小論文に集中する日々で、とても短く感じました。

2次選考は2日間で、1日目は犬の糞便検査に関する実験が課題です。寄生虫やその卵があるかを調べ、スケッチもしました。実験は先生の説明をよく聞いて始める、実験後に内容を再確認するなどの基本を忘れず、取り組むことで上手くなりました。2日目は実験に対する考察や感想などを紙に書き、その内容をプレゼンする面接です。こちらは何度も練習していたので、緊張せず楽しみながら臨むことができました。

こうした小論文の作成や面接の準備などを通じ、大学で何を学びたいのか、将来どうしたいのかなど、自分と向き合い考える時間を持てまし

た。その点が、入試に総合型選抜を選んだ最大の収穫だと思っています。

今後は志望のきっかけともなったがんの治療において、愛玩動物看護師の果たす役割を学び、獣医師や飼い主、動物の気持ちに寄り添うことができる看護師になれるようにがんばります。

